

**製品名: X11 $\beta$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19943**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	83kDa

**抗原情報**

遺伝子名	APBA2
別名	APBA2; MINT2; X11L; Amyloid beta A4 precursor protein-binding family A member 2; Adapter protein X11beta; Neuron-specific X11L protein; Neuronal Munc18-1-interacting protein 2; Mint-2
遺伝子 ID	321.0
SwissProt ID	Q99767
免疫原	抗血清はヒト APBA2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 371-420

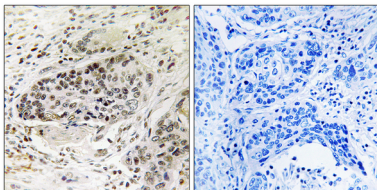
**背景**

アミロイドβ前駆体タンパク質結合ファミリーAメンバー2 (APBA2) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、X11タンパク質ファミリーのメンバーです。これは、アルツハイマー病アミロイド前駆体タンパク質 (APP) と相互作用する神経アダプタータンパク質です。APPを安定化し、アルツハイマー病患者の脳に沈着するAβペプチドを含むタンパク質分解APP断片の生成を阻害します。この遺伝子産物はシグナル伝達プロセスに関与していると考えられています。また、シナプス小胞のエキソサイトーシスと神経細胞接着を結びつける可能性のある複合体を形成できる、脳内の推定小胞輸送タンパク質とも考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq提供、2008年7月],ドメイン:STXBP1に結合するN末端ドメイン、βアミロイド前駆体タンパク質の細胞質ドメインとの結合を媒介する中間リン酸化チロシン結合ドメイン (PID/PTB)、およびタンパク質を細胞膜に付着させると考えられる2つのC末端PDZドメインから構成されます。機能:シナプス小胞放出機構の必須成分であるSTXBP1に結合し、シナプス小胞放出において推定上の機能を果たします。βアミロイド前駆体タンパク質 (APP) のプロセッシング、ひいてはβAPPの形成を調節する可能性があります。類似性:1つのPIDドメインを含みます。類似性:2つのPDZ (DHR) ドメインを含みます。サブユニット:STXBP1およびシンタキシン-1を含む多量体複合体の一部です。アミロイドタンパク質βの細胞質ドメイン、およびPDZドメインを介して核因子NF-κB/p65に結合する。APBA2BPのアミノ末端ドメインと相互作用する。組織特異性:脳。、

## 研究分野

-

## 画像データ



APBA2抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。